

『農協の地域づくり活動』のあり方

農業協同組合研究会 第8回シンポジウム in ひまわり農協

サブプライムローンの焦げ付きによる金融不安に加え原油・原材料価格が急騰し、これまで経済を下支えしてきた輸出の落ち込みなどで企業業績が悪化し、わが国経済の不況色が強まっています。これが農業にも深刻な影響を及ぼし、農産物価格の低迷、生産資材価格の急騰などにより生産の継続が危ぶまれ、農村の活力を低下させて地域格差をさらに拡大する要因にもなっています。

このため、農業振興による食料の安定供給と農村の活性化による地域づくりが国政上の重要な課題になっていきますが、これに農協はどう取り組むべきか。今回のシンポジウムでは実際の経験にも学びながら、当面する農政課題と関連づけて農協が果たすべき役割について理論的な面からも議論したいと思えます。多数の皆さんのご参加を期待しています。

日時：2008年8月30日(土)
午前10時30分～午後5時

場所：ひまわり農協 中部営農センター会議室
TEL 0533-85-1234
愛知県豊川市三谷原町北浦68番地の1
JR 飯田線豊川駅(東口)下車
約2km 車で10分弱

●農協施設の視察

午前10時30分～12時30分
10時30分までに豊川駅
(東口1階出口広場)に
集合してください。

●シンポジウム

午後1時30分～5時
ひまわり農協中部営農センター

テーマ『農協の地域づくり活動』のあり方

報告-1



梶井 功氏
(東京農工大学名誉教授)

「当面する農政課題」

報告-2



柴田 勝氏
(ひまわり農協
代表理事組合長)

「わが農協の目指す
ビジョンと地域貢献」

報告-3



藤谷 築次氏
(農業開発研修センター
会長理事)

「農協運動の現代的役割は何か
—重要性を増す地域活性化への取り組み—」

司会



北出 俊昭氏
(元明治大学農学部教授)

参加費：2,000円(マイクロバスおよび昼食代) シンポジウムのみのご参加は無料

お問合せ・参加申し込み先 農業協同組合研究会事務局

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-1-15 藤野ビル4F(社) 農協協会内
電話：03-3639-1121 FAX：03-3639-1120

Eメール：info@jacom.or.jp

地域社会との係わりと組合員加入促進の 取り組みを中心にした農協の地域貢献

ひまわり農協からのメッセージ

活動の内容と特徴

ひまわり農協は愛知県の東三河地方に位置し、都市化も進んでいるが、温暖な気象条件で農業生産に適した地域です。ここで当農協は、2000年4月に「長期基本構想」を策定し、現在、それに基づいた「第5次中期総合計画」(06～08年)に取り組んでいます。

当農協は「ひまわり」ブランドづくりの営農活動と同時に「地球温暖化防止」、「地産地消」を重視し、女性出荷会員自らの運営による「グリーンセンター・産直ひろば」は、農業者だけでなく地域住民にも大きな波及効果を及ぼしています。なお、07年にはパラ部会は日本農業大賞を受賞しました。

また、女性正組合員比率の向上を目指した活動が重視されていますが、その結果、前年度18名だった女性総代は本年には96名に増加しました。さらに当農協の重要な特徴は、地域住民対象のカルチャー教室や高齢者介護なども活発に行われ、准組合員の加入が促進されていることです。その結果、06年度には737名もの組合員が増加しています。農業の基本が「土づくり」であるように、「人づくり」を基本に農協が地域貢献につながる事業展開を目指しているところに、当農協の重要な特徴があります。

〈ひまわり農協の概況〉

- 合併の経過：1990年4月に豊川市、音羽町、一宮町、小坂井町、御津町の1市4町の5農協合併で発足。
- 組合員数：正組合員 7,859名
准組合員 13,529名
合計 21,388名
- 役員数：理事24人
(うち常勤4名)
監事8人
(うち常勤1名)
- 職員数：394人
- 組合員組織：女性部、青年部のほか作物部会など31部会
- 主な農産物：トマト、イチゴなど野菜・果実、ばら・菊などの花卉施設園芸



■関東方面よりお越しの方は・・・
東海道新幹線【豊橋駅】で下車⇒飯田線豊川駅乗換え【豊川駅】下車⇒東口より車で10分弱。
お車では、東名高速道路【豊川I.C.】より国道151経由でお越しください。

■大阪方面よりお越しの方は・・・
お車では、東名高速道路【豊川I.C.】または国道23、国道151経由でお越しください。

農協の組織基盤である組合員拡大は、事業運営や組織活動を実施する前提となる基本的な取り組みです。また、「農協にはそもそも地域(協同)組合という特徴がある」との認識から、組合員拡大を積極的に進めています。組合員になっていただくことで、農協からの情報発信もスムーズに行われ、農協事業の利用拡大にもつながり、そこで得た果実の一定部分を地域の農業振興支援と交流活動に当てることができると考えています。

そのなかで運営上の課題となっており、組合員の構成が変化していることへの対応が遅れていること、現在の組合運営は、正組合員が横ばいなのに対し准組合員数が大きく増加している実態を反映しているとはいえないからです。農業を含めた「地域との関係強化や農協の認知度を高める上で、准組合員との「接点」をどう構築するか、が今後の農協運営の「鍵」の一つではないかと考えています。

今回のシンポジウムでは皆様方からのご意見をいただき、そして討論し、各地に持ち帰って基本方策および具体的な取り組みの方針と方向を考える一助になるよう、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

ひまわり農協代表理事組合長 柴田 勝